

10/528190

DT120d PCT/PTO 17 MAR 2005

P27613.P03

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant : Atsushi MIIDA et al.

Appl. No: : Not Yet Assigned PCT Branch

Filed : Concurrently Herewith PCT/JP03/12971

For : OILY SOLID COSMETIC AND METHOD FOR PRODUCTION THEREOF

CLAIM OF PRIORITY

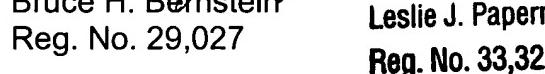
Commissioner for Patents
U.S. Patent and Trademark Office
Customer Service Window, Mail Stop _____
Randolph Building
401 Dulany Street
Alexandria, VA 22314

Sir:

Applicant hereby claims the right of priority granted pursuant to 35 U.S.C. 119 and 365 based upon Japanese Application No. 2002-298346, filed October 11, 2002. The International Bureau already should have sent a certified copy of the Japanese application to the United States designated office. If the certified copy has not arrived, please contact the undersigned.

Respectfully submitted,
Atsushi MIIDA et al.


Bruce H. Bernstein
Reg. No. 29,027


Leslie J. Paperner
Reg. No. 33,329

March 17, 2005
GREENBLUM & BERNSTEIN, P.L.C.
1950 Roland Clarke Place
Reston, VA 20191
(703) 716-1191

09.10.03

Rec'd PCT/PTO

17 MAR 2005

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日 2002年10月11日
Date of Application:

出願番号 特願2002-298346
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2002-298346]

REC'D 27 NOV 2003
WIPO PCT

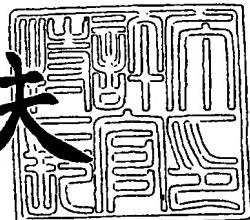
出願人 株式会社コーセー¹
Applicant(s):

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年11月13日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願
【整理番号】 P0001507
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 A61K 7/00
【発明者】
【住所又は居所】 東京都北区栄町48番18号 株式会社コーワー研究本部内
【氏名】 三井田 淳
【発明者】
【住所又は居所】 東京都北区栄町48番18号 株式会社コーワー研究本部内
【氏名】 伊藤 利之
【発明者】
【住所又は居所】 東京都北区栄町48番18号 株式会社コーワー研究本部内
【氏名】 中山 純子
【発明者】
【住所又は居所】 東京都北区栄町48番18号 株式会社コーワー研究本部内
【氏名】 渡辺 総一郎
【発明者】
【住所又は居所】 東京都北区栄町48番18号 株式会社コーワー研究本部内
【氏名】 畠 裕
【特許出願人】
【識別番号】 000145862
【氏名又は名称】 株式会社コーワー
【代表者】 小林 保清

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 054759

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 油性固形化粧料

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分(A)～(D)；

(A) ビタミンA及び／又はその脂肪酸エステル

(B) 無水ケイ酸

(C) 油溶性抗酸化剤

(D) 室温でペースト状及び／又は液状の油性成分

を含有することを特徴とする油性固形化粧料。

【請求項2】 成分(B)の無水ケイ酸が煙霧状無水ケイ酸であることを特徴とする請求項1記載の油性固形化粧料。

【請求項3】 成分(D)の室温でペースト状及び／又は液状の油性成分がポリブテン及び／又は重質流動イソパラフィンであることを特徴とする請求項1～2のいずれか1項に記載の油性固形化粧料。

【請求項4】 実質的に水を含有しないことを特徴とする請求項1～3のいずれか1項に記載の油性固形化粧料。

【請求項5】 スティック状であることを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記載の油性固形化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルを安定に配合でき、且つ、良好な使用性、使用感を有する油性固形化粧料に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

ビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルは、肌荒れの改善、皮膚角化症等の予防や治療、さらには皮膚老化の防止や回復等に有効な成分であることが知られている。しかしながら、ビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルは、構造的に極めて不安定であり、光、空気、熱、金属イオン等により容易に種々の異性化、

分解、重合等を起こすため、安定に化粧料に配合することが困難であった。上述した問題点を解決するために酸化防止剤、金属イオン封鎖剤を配合したり、多量の油分を配合するなどの取り組みがなされている。抗酸化剤を配合した油性固形の油分を配合するなどの取り組みがなされている。抗酸化剤を配合した油性固形の油分をゲル化したオイルジェル（例えば、特許文献1参照）、オイルエッセンス、界面活性剤による油分をゲル化したオイルジェル（例えば、特許文献2参照）などがある。また、特定の極性油に溶解させると安定性が図られ、更に抗酸化剤を併用すると更に安定性の向上が図れる技術も開示されている。（特許文献3参照）。更に、ビタミンAの保存に関して、パルミタートのようなエステルとして、新鮮な植物油に溶解し、酸化防止剤（d₁- α -トコフェロール、ジブチルヒドロキシトルエンなど）を添加して保存するとの情報もある。（非特許文献1参照）しかし、これらには本願の組合せや効果、剤型に関する記載も示唆も何ら見当らない。

【0003】

【特許文献1】

特開平6-024956号公報（P7 実施例9 口紅）

【特許文献2】

特開平6-032713号公報（P5～6 実施例6 オイルエッセンス、実施例8 オイルエッセンス、実施例11 オイルジェル）

【特許文献3】

特開平6-032720号公報（発明が解決しようとする課題、P6 実施例9、同11）

【非特許文献1】

大木道則ら編 「化学大辞典」東京化学同人 1989年10月20日発行 P1870 ビタミンAの項 右段落

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

従来のオイル剤型である液状タイプやジェルタイプは、ボトルやチューブから手、あるいはコットンに取り出し使用するなど使用の際の利便性に欠けたり、また、使用時に滑らかさや肌への密着感に欠ける等の使用性、使用感に劣るものであった。従って、ビタミンAおよび／またはその脂肪酸エステルを安定に含有しあった。

、且つ、使用性に優れ、使用時の滑らかさや肌への密着感がある化粧料を得ることを課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本発明者らは、上記実状において鋭意検討を重ねた結果、ビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルを含有する化粧料において、室温でペースト状及び／又は液状の油性成分、無水ケイ酸を含有する油性固形化粧料、特にスティック状固形化粧料とすることで、このような使用性の不便さ、使用感を改善できることを見出した。また更に、油溶性抗酸化剤を配合することでビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルの安定性も向上でき、その効果を持続的に発揮できる化粧料となることを見出した。

【0006】

すなわち、本発明の油性固形化粧料は、次の成分（A）～（D）；

- (A) ビタミンA及び／又はその脂肪酸エステル
- (B) 無水ケイ酸
- (C) 油溶性抗酸化剤
- (D) 室温でペースト状及び／又は液状の油性成分

を含有することを特徴とする油性固形化粧料に関わるものである。また、成分（B）が煙霧状無水シリカ、成分（D）がポリブテン及び／又は重質流動パラフィンである前記油性固形化粧料に関わるものである。更には、実質的に水を含有しない前記油性固形化粧料に関わるものであり、また更には、スティック状であることを特徴とする前記油性固形化粧料に関わるものである。

【0007】

【発明の実施の形態】

以下、詳述する。

本発明に用いられる成分（A）のビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルは、肌荒れの改善、皮膚角化症等の予防や治療、さらには皮膚老化の防止や回復等に有効な成分である。本発明に用いられるビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルとしては、ビタミンA、ビタミンA酢酸エステル、ビタミンAパルミチン酸

エステル等が挙げられ、a 11-トランス型または13-シス型であることが好ましく、それらの混合物であっても構わない。これらは、一種または二種以上を適宜選択して組み合わせることができる。

【0008】

本発明の油性固形化粧料における成分（A）のビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルの含有量は、特に限定されるものではないが、0.001～10質量%（以下、単に「%」と記載する）が好ましく、特に優れた肌荒れの改善、皮膚角化症等の予防や治療、さらには皮膚老化の防止や回復等の効果や皮膚へのべたつき等の使用感を考慮すると、0.01～1%がより好ましい。

【0009】

本発明に用いる成分（B）の無水ケイ酸は、固形状に形状保持し使用性を向上させるためや使用感、保存安定性を向上させるために含有されるものである。成分（B）は、通常化粧料に使用される無水ケイ酸であれば、煙霧状、多孔質、無孔質、球状等、何れのものも使用できるが、特に煙霧状無水ケイ酸が好ましい。煙霧状無水ケイ酸は、例えば四塩化ケイ素を水素と酸素炎中で加水分解して得られるものが挙げられ、市販品としては、AEROSIL 50、AEROSIL 130、AEROSIL 200、AEROSIL 200V、AEROSIL 200CF、AEROSIL 200FAD、AEROSIL 300、AEROSIL 300CF、AEROSIL 380（以上、日本アエロジル社製）等が挙げられる。また、前記煙霧状無水ケイ酸を反応性アルキルシランやオルガノシラザン等で処理した疎水性煙霧状無水ケイ酸でもよい。疎水化処理の方法としては、ジメチルジクロルシランによるジメチルシリル化処理、トリメチルクロルシランやヘキサメチルジシラザンによるトリメチルシリル化処理、オクチルトリクロルシランによるオクチルシリル化処理、ジメチルポリシロキサンやメチルハイドロジェンポリシロキサンによるシリコーン処理、金属セッケン化合物によるコーティング処理等が挙げられる。市販品としては、AEROSIL R-972、AEROSIL R974、AEROSIL R976（以上、ジメチルジクロルシラン処理）、AEROSIL RX200、AEROSIL RX300（以上、ヘキサメチルジシラザン処理）、AEROSIL R805（

オクチルシラン処理)、AEROSIL RY200、AEROSIL RY300(以上、ジメチルシロキサン処理)(いずれも日本アエロジル社製)、キャボジルTS530(トリメチルクロルシラン処理)(キャボット社製)等が挙げられる。

【0010】

本発明に用いる成分(B)の無水ケイ酸は必要に応じ、一種又は二種以上を用いることができ、含有量としては0.01~30%が好ましく、更に0.5~20%が形状保持、使用感、保存安定性の点でより好ましい。

【0011】

本発明に用いられる成分(C)の油溶性抗酸化剤は、成分(A)ビタミンA及び/又はその脂肪酸エステルの経時における劣化を防止し、変臭、変色等の保存安定性を向上する目的で含有されるものである。本発明に用いられる成分(C)の油溶性抗酸化剤は、通常化粧料に汎用されているものであれば特に限定されないが、具体的には、ジブチルヒドロキシトルエン(以下BHTと表記する)、ブチルヒドロキシアニソール(以下BHAと表記する)、 α 、 β 、 γ 、 σ -トコフェロール類、没食子酸プロピル、L-アスコルビン酸脂肪酸エステル等が挙げられる。これらは、一種または二種以上を適宜選択して組み合わせができる。

【0012】

本発明の化粧料における成分(C)の油溶性抗酸化剤の含有量は、特に限定されるものではないが、0.001~10%が好ましく、特に優れたビタミンA及び/又はその脂肪酸エステルの保存安定性向上効果や皮膚へのべたつき等の使用感を考慮すると、0.01~1%がより好ましい。

【0013】

本発明に用いる成分(D)の室温でペースト状及び/又は液状の油性成分は、使用時の滑らかさや肌への密着感等の改善や、ビタミンA及び/又はその脂肪酸エステルの保存安定性の改善を目的に含有されるものである。通常化粧料に用いられる油分であれば何れのものでもよく、動物油、植物油、合成油等の起源を問わず、炭化水素類、油脂類、ロウ類、硬化油類、エステル油類、脂肪酸類、高級

アルコール類、シリコーン油類、フッ素系油類、ラノリン誘導体類等が挙げられる。具体的には、流動パラフィン、重質流動イソパラフィン、 α -オレフィンオリゴマー、スクワラン、ワセリン、ポリイソブチレン、ポリブテン等の炭化水素類、オリーブ油、ヒマシ油、ミンク油、マカデミアンナッツ油等の油脂類、ホホバ油、リンゴ酸ジイソステアリル、セチルイソオクタネート、ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ジイソステアリン酸ポリグリセリル、トリイソステアリン酸ジグリセリル、ジオクタン酸ネオペンチルグリコール、コレステロール脂肪酸エステル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸ジ（コレステリル・ベヘニル・オクチルドデシル）等のエステル類、イソステアリン酸、オレイン酸等の脂肪酸類、オレイルアルコール、イソステアリルアルコール等の高級アルコール類、低重合度ジメチルポリシロキサン、高重合度ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、オクタメチルシクロテトラシロキサン、ポリエーテル変性ポリシロキサン、ポリオキシアルキレン・アルキルメチルポリシロキサン・メチルポリシロキサン共重合体、アルコキシ変性ポリシロキサン、フッ素変性ポリシロキサン等のシリコーン類、パーカルオロデカン、パーカルオロオクタン、パーカルオロポリエーテル等のフッ素系油剤類、ラノリン、酢酸ラノリン、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラノリンアルコール等のラノリン誘導体等が挙げられる。これら中でも、ポリブテン、重質流動イソパラフィンが肌への密着感等の使用感の面から特に好ましく、市販品としては、パールリーム16、パールリーム18（以上、日本油脂社製）、ポリブテン100R、ポリブテン300R、ポリブテン2000H（以上、出光石油化学社製）等が例示できる。これらは必要に応じて一種又は二種以上を用いることができる。

【0014】

本発明に用いる成分（D）の室温でペースト状及び／又は液状の油性成分の含有量は、特に限定されないが、5～99%が好ましく、更に10～80%が好ましい。この範囲であれば使用感、保存安定性の点で好ましい。

【0015】

本発明の油性固形化粧料は、前記成分（A）～（D）を含有することにより、

ビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルを安定に配合でき、且つ、固形状に形状保持でき、良好な使用性、使用感を有する油性固形化粧料とすることができる。

【0016】

本発明の油性固形化粧料は、剤型としては油性型、乳化型（W/O型）が挙げられ、形態的には、例えば、皿状容器に充填された軟固形状の形態のものから固形スティック状の形態のものまで含むものである。また、実質的に水を含有しない油性固形化粧料においては、更なるビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルの安定性の向上の点から好ましく、更に形態的には、スティック状形態のものは、使用に際しての利便性、使用時の滑らかさ、べたつきの無さ、肌への密着感等の使用感、ビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルや製剤の保存安定性の点からより好ましい。

【0017】

本発明の油性固形化粧料には、本発明の効果を損なわない程度で、必要に応じて、前記必須成分以外の各種成分、例えば、油性成分、粉体成分、界面活性剤、紫外線吸収剤、褪色防止剤、防腐剤、キレート剤、水溶性高分子、皮膜形成剤、保湿剤、美容成分、香料などを各種の効果を付与するために適宜配合することができる。

【0018】

次に実施例をもって本発明をより詳細に説明する。本発明はこれらにより、何ら限定されるものではない。

【0019】

【実施例】

実施例1～8及び、比較例1～4

表1（実施例）及び表2（比較例）に示す組成のビタミンAパルミチン酸エステル含有油性固形化粧料を調製し、肌効果（肌荒れの改善）、使用性（使い易さ）、使用感（使用時の滑らかさ、密着感）、保存安定性（変色・変臭評価、分離性（発汗）評価）について下記の方法により評価を行った。その結果も併せて表1及び表2に示す。

【0020】

【表1】

(%)

No.	成分	実施例								
		1	2	3	4	5	5	6	7	8
1	ビタミンAパルミチン酸エステル	0.25	0.001	4	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
2	親油化処理無水ケイ酸(注1)	1	1	1	0.1	5	1	1	0.5	0.5
3	BHT	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.001	1	0.1	0.1
4	重質流動イソパラフィン(注2)	10	10	10	10	10	10	10	5	20
5	ポリエチレン・マイクロクリスチルワックス混合物	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5
6	ポリエチレンワックス	2	2	2	2	2	2	2	2	2
7	セレシンワックス	6	6	6	6	6	6	6	6	6
8	パラフィン	10	10	10	10	10	10	10	10	10
9	流動パラフィン	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
10	ナイロン粉末1(注3)	4	4	4	4	4	4	4	4	4
11	ナイロン粉末2(注4)	3	3	3	3	3	3	3	3	3
12	タルク	7	7	7	7	7	7	7	7	7
13	エチレンジアミン四酢酸2ナトリウム	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
14	酸化チタン	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
評価項目及び判定結果										
肌効果 : 肌荒れの改善効果		◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
使用性 : 使い易さ		◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎
使用感 : 使用時の滑らかさ		◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎
: 密着感		◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
保存安定性 : 变色・変臭評価		◎	○	○	◎	◎	○	○	◎	◎
: 分離性評価		◎	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○

注1: AEROSIL R-972(日本エコシル社製)

注2: パールリーム18(日本油脂社製)

注3: 東レナイロン粉末SP-500(東レ社製)

注4: リルサンパウダーS(リルサン(仮)社製)

【0021】

【表2】

(%)

No.	成分	比較例			
		1	2	3	4
1	ビタミンAパルミチン酸エステル	-	0.25	0.25	0.25
2	親油化処理無水ケイ酸(注1)	1	-	1	1
3	BHT	0.1	0.1	-	0.1
4	重質流動イソパラフィン(注2)	10	10	10	-
5	ポリエチレン・マイクロクリスタリンワックス混合物	6.5	6.5	6.5	6.5
6	ポリエチレンワックス	2	2	2	2
7	セレシンワックス	6	6	6	6
8	パラフィン	10	10	10	10
9	流動パラフィン	残量	残量	残量	残量
10	ナイロン粉末1(注3)	4	4	4	4
11	ナイロン粉末2(注4)	3	3	3	3
12	タルク	7	7	7	7
13	エチレンジアミン四酢酸2ナトリウム	0.1	0.1	0.1	0.1
14	酸化チタン	1.5	1.5	1.5	1.5
評価項目及び判定結果					
肌効果 : 肌荒れの改善効果					
肌効果 : 肌荒れの改善効果	×	×	◎	◎	
使用性 : 使い易さ	◎	◎	◎	◎	
使用感 : 使用時の滑らかさ	◎	◎	◎	◎	
: 密着感	◎	◎	◎	×	
保存安定性 : 変色・変臭評価	◎	◎	×	◎	
: 分離性評価	◎	×	◎	◎	

注1: AEROSIL R-972(日本エロジル社製)

注2: パールリーム18(日本油脂社製)

注3: 東レナイロン粉末SP-500(東レ社製)

注4: リルサンパウダーS(リルサン(仏)社製)

【0022】

(製造方法)

A. 成分(1)、(3)～(9)を均一に加熱混合した後、成分(2)、(10)～(14)を加え、均一に混合する。

B. Aを容器に充填し冷却固化して製品を得る。

【0023】

(肌効果評価方法)

各試料毎に専門パネル20名による使用テスト（朝晩洗顔後、一ヶ月間塗布）を行い、肌荒れ改善効果について下記7段階評価基準にて評価し、パネル員の評点合計から、その平均値を算出し、下記4段階判定基準により判定した。

【0024】

(使用性、使用感評価方法)

各試料毎に専門パネル20名による使用性及び使用テスト（洗顔後、塗布）を行い、使用性（使い易さ）の確認、使用時の滑らかさ、肌への密着感について下記7段階評価基準にて評価し、パネル員全員の評点合計から、その平均値を算出し、下記4段階判定基準により判定した。

【0025】

(保存安定性：変臭、変色試験方法)

各試料を40℃及び5℃の恒温槽で1ヶ月間保存し、調製直後の状態を基準として下記4段階判定基準（保存安定性用）により判定した。

【0026】

(保存安定性：分離性（発汗）試験方法)

各試料の45℃で2週間保存し、その状態を観察し、室温保存品と比較して、下記4段階判定基準（保存安定性用）により判定した。

【0027】

(肌効果、使用性、使用感；7段階評価基準)

評点：評価

6点：非常に良い

5点：良い

4点：やや良い

3点：普通

2点：やや悪い

1点：悪い

0：非常に悪い

(肌効果、使用性、使用感；4段階判定基準)

5点を超える : 非常に良い (◎)

3点を超えて5点以下：良好 (○)

2点を超えて3点以下：やや不良 (△)

2点以下 : 不良 (×)

【0028】

(保存安定性；4段階判定基準)

◎：変化なく良好。

○：ほとんど変化はないが、僅かに変化が認められる。

△：かなり変化が認められる。

×：変化し、劣悪である。

【0029】

上記表1及び表2の結果から明らかのように、本発明品の実施例1～8の油性固形化粧料は、比較例1～4の油性固形化粧料に比較して、肌効果、使用感、保存安定性に優れたものであった。

【0030】

実施例9：リップクリーム

(成分)	(%)
1. ポリエチレン・マイクロクリスタリンワックス混合物	2. 5
2. ポリエチレンワックス	2. 0
3. ワセリン	20. 0
4. トリー2-エチルヘキサン酸グリセリル	20. 0
5. スクワラン	5. 0
6. 流動パラフィン	残量
7. 重質流動イソパラフィン（注1）	20. 0
8. ジメチルジクロルシラン処理無水ケイ酸（注2）	10. 0
9. 1, 3-ブチレングリコール	0. 5
10. セスキオレイン酸ソルビタン	0. 1
11. アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体（注3）	0. 01
12. アロエベラ抽出液	0. 1
13. BHT	0. 1

14. ビタミンA	1. 0
15. 香料	0. 05

注1：パールリーム18 (日本油脂社製)

注2：AEROSIL R-974 (日本アエロジル社製)

注3：ペミュレンTR-2 (NOVEON社製)

【0031】

(製造方法)

A. 成分(1)～(7)、(13)及び(14)を均一に加熱混合した後、成分(8)、(9)～(12)及び(15)を加え、均一に混合する。

B. Aを容器に充填し固化して製品を得る。

【0032】

本発明のリップクリームは、使用性が高く、塗布時の滑らかさや密着感等の使用感が良好で、肌効果、保存安定性においても優れたものであった。

【0033】

実施例10：口紅（スティック状）

(成分)	(%)
1. (ベヘン酸／エイコサン二酸) グリセリル	5. 0
2. ポリエチレンワックス	5. 0
3. キャンデリラワックス	5. 0
4. ロジン酸ペントエリスリット	2. 0
5. 重質流動イソパラフィン（注1）	30. 0
6. ポリブテン（注2）	5. 0
7. 流動パラフィン	残量
8. トリー2-エチルヘキサン酸グリセリル	15. 0
9. 無水ケイ酸（注3）	0. 5
10. 赤色202号	適量
11. 黄色4号	適量
12. 香料	0. 05
13. BHT	0. 1

14. ビタミンAパルミチン酸エステル 1. 0

注1：パールリーム18 (日本油脂社製)

注2：ポリブテン300R (出光石油化学社製)

注3：AEROSIL 300 (日本アエロジル社製)

【0034】

(製造方法)

A. 成分(1)～(8)、(13)及び(14)を均一に加熱混合した後、成分(9)、(10)～(12)を加え、均一に混合する。

B. Aを充填成型し固化して製品を得る。

【0035】

本発明のスティック状口紅は、使用性が高く、塗布時の滑らかさや密着感等の使用感が良好で、肌効果、保存安定性においても優れたものであった。

【0036】

実施例11：口紅（金皿充填タイプ）

(成分)	(%)
1. (ベヘン酸／エイコサン二酸) グリセリル	10. 0
2. ポリエチレンワックス	3. 0
3. キャンデリラワックス	3. 0
4. ロジン酸ペントエリスリット	2. 0
5. 重質流動イソパラフィン（注1）	10. 0
6. ポリブテン（注2）	5. 0
7. 流動パラフィン	残量
8. トリー2-エチルヘキサン酸グリセリル	15. 0
9. ジメチルジクロルシラン処理無水ケイ酸（注3）	0. 5
10. ベンガラ被覆雲母チタン	15. 0
11. 赤色202号	適量
12. 黄色4号	適量
13. 黒色酸化鉄	適量
14. アロエベラ抽出液	0. 1

15. トコフェロール	0. 05
16. BHT	0. 1
17. ビタミンAパルミチン酸エステル	1. 0
18. 香料	0. 05

注1：パールリーム18 (日本油脂社製)

注2：ポリブテン300R (出光石油化学社製)

注3：AEROSIL R-974 (日本アエロジル社製)

【0037】

(製造方法)

- A. 成分(1)～(8)及び(15)～(17)を均一に加熱混合した後、成分(9)、(10)～(14)及び(18)を加え、均一に混合する。
- B. Aを充填成型し固化して製品を得る。

【0038】

本発明の金皿充填タイプ口紅は、使用性が高く、塗布時の滑らかさや密着感等の使用感が良好で、肌効果、保存安定性においても優れたものであった。

【0039】

実施例12：リップグロス

(成分)	(%)
1. (ベヘン酸／エイコサン二酸) グリセリル	1. 5
2. ポリエチレンワックス	4. 5
3. キャンデリラワックス	3. 0
4. ロジン酸ペントエリスリット	0. 1
5. ポリブテン(注1)	40. 0
6. リンゴ酸ジイソステアリル	6. 0
7. 流動パラフィン	残量
8. 無水ケイ酸(注2)	8. 0
9. ビタミンA	0. 1
10. BHA	0. 1
11. 紫外線吸収剤(注3)	0. 1

12. 赤色202号	適量
13. 群青	適量
14. 酸化チタン処理合成雲母	15. 0
15. ラメ剤（注4）	適量
16. BHT	0. 1

注1：ポリブテン300R（出光石油化学社製）

注2：AEROSIL 300（日本アエロジル社製）

注3：ユビナールMC80（BASF社製）

注4：ダイヤホログラム（ダイヤ工業社製）

【0040】

（製造方法）

A. 成分（1）～（7）及び（9）～（11）、（16）を均一に加熱混合した後、成分（8）及び（12）～（15）を加え、均一に混合する。

B. Aを充填成型し固化して製品を得る。

【0041】

本発明品のリップグロスは、使用性が高く、塗布時の滑らかさや密着感等の使用感が良好で、肌効果、保存安定性においても優れたものであった。

【0042】

【発明の効果】

本発明の油性固形化粧料は、ビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルを安定に含有でき、且つ、使用性が高く、使用時の滑らかさ、肌への密着感等の使用感や保存安定性に優れたものである。

【書類名】要約書

【要約】

【課題】 ビタミンA及び／又はその脂肪酸エステルを安定に含有し、使用性が高く、使用感、保存安定性に優れた油性固形化粧料の提案。

【解決手段】 次の成分（A）～（D）；

（A）ビタミンA及び／又はその脂肪酸エステル

（B）無水ケイ酸

（C）油溶性抗酸化剤

（D）室温でペースト状及び／又は液状の油性成分

を含有する油性固形化粧料。成分（B）が煙霧状無水ケイ酸、成分（D）がポリブテン及び／又は重質流動イソパラフィンである油性固形化粧料。更には、実質的に水を含有しない油性固形化粧料、好ましくはスティック状である油性固形化粧料。

【選択図】なし

認定・付加情報

特許出願の番号 特願2002-298346
受付番号 50201534484
書類名 特許願
担当官 第五担当上席 0094
作成日 平成14年10月18日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成14年10月11日

次頁無

出証特2003-3093723

特願2002-298346

出願人履歴情報

識別番号 [000145862]

1. 変更年月日 1991年 8月23日

[変更理由] 名称変更

住 所 東京都中央区日本橋3丁目6番2号
氏 名 株式会社コーワ